

# 甲斐市立玉幡小学校 学校関係者評価書

令和8年2月17日(火)

甲斐市立玉幡小学校 学校関係者評価委員会作成

## 学校関係者評価委員会

実施日:令和8年2月6日(金)午後2時50分から3時50分

会場:甲斐市立玉幡小学校 家庭科室

参加者:三井 敏夫・志村 俊光・白神 忠広・斉藤 仁(学校運営協議会委員)

校長 堀内 貴司・教頭 城内 優子・教務主任 松橋 勝(学校側)

### I 学校側から提案された内容

〈自己評価書について〉

- 1 達成状況について
- 2 改善策について
- 3 まとめ

### II 協議された主な内容

1 全体の概要について

- 「教職員自己評価」「保護者アンケート」「児童アンケート」の3つのアンケート結果を①教職員の自己評価に基づく分析,②児童,保護者の二者比較に基づく分析,③教職員,児童,保護者の三者比較に基づく分析の三点で分析した報告。
- 全般として,肯定的な回答率が非常に高く,教職員自己評価においては,多くの項目で100%または90%台後半の数値を示した。
- 児童アンケートでは,児童は「学校が楽しい」と感じ,基本的な規範意識や学習習慣を身に付けている。特に「朝食」や「宿題」の習慣は家庭の協力もあり素晴らしい成果が出ている。
- 課題として,メディア利用時間(スマホ,ゲーム等),相談体制の強化などがあげられる。

2 学校教育目標・学校経営について

- ICTの「効果的な」利活用については,ICTの「量」は確保されつつあるが,「質(効果的な活用)」への転換が過渡期にあり,機器の操作だけでなく,授業改善につながる具体的な活用事例の共有や研修が必要であること。
- キャリア教育,地域人材の活用については,「機会が少ない」,「キャリアパスポートをうまく活用できていない」との記述が見られ,取組の必要性は理解されているが,日々の教育活動の中で実践する具体的な場面や方法(カリキュラム・マネジメント)の工夫が求められること。
- 働き方改革と校務分掌については,全体としては適材適所が図られているが,一部の教職員への業務集中が懸念される。業務の平準化や効率化をさらに進める必要があること。

3 学校運営について

- 今後の重点課題としては,「メディア利用時間のコントロール」と「相談体制の充実」,そして「思いやりの行動化」が挙げられる。また,学校の指導や安全対策について,保護者への発信を強化し,理解と協力を得ていくことが重要であること。

- 教職員が、児童とふれあう時間の確保に努めること。校務効率化などの働き方改革を進め、ゆとりをもって児童に関わることができる時間確保を図っていくこと。
- 「報告、連絡、相談、確認」を確実にを行うことで、組織での対応が可能になり、早期に教育諸課題を解決できる。今後とも、校長の指示のもと教頭を中心として、教職員間での情報共有を確実にやっていくこと。

#### 4 学習指導について

- 学年だよりや学校 HP など日頃の授業の取組についても発信していくことで、学校の学習に対する取組内容を保護者に伝えること。
- スマホ・タブレット等の使用については、情報モラル教育の推進と共に、今後も、保護者への啓発を行っていくこと。
- 多様な児童の誰一人を取り残すことがないように、合理的な配慮とその指導法について、特別支援コーディネーターを中心に、学校体制で取り組めるようにする。そのために、教職員間での情報共有を確実にやっていくこと。

#### 5 生徒指導について

- 問題行動については、教職員や保護者等による早期発見と早期対応が何より重要であること。できるだけ素早い対応ができるよう、日頃からの学級経営の充実を図ったり、児童・保護者とのコミュニケーションを深めたりしていくこと。
- 特に、保護者対応については、管理職の指導のもと、各担任が、連絡帳や電話でのやりとり等、丁寧に関わりながら信頼関係を築いていくこと。
- 授業参観後、学級懇談会を設けて、保護者と教職員とが座談会方式で子育てについて気軽に語り合える場を設定すること。

#### 6 地域との連携について

- 「要望を聞く」から「共に創る」へ変換が必要。「何をしたか」の報告に加え、「地域の方の思い」や「児童の変容」にフォーカスしたストーリー性のある広報を強化する。例：PTA 新聞を保護者にゆだねて活性化を図ること。
- HP の閲覧数や反応を分析し、より保護者のニーズに沿った情報提供の形を模索する。コミュニティ・スクール(学校運営協議会)等の場をさらに活用し、学校と地域が対等なパートナーとして教育目標を共有すること。
- 地域人材の活用をさらに進め、「単発のゲスト」ではなく、年間を通じた学習サポーターとしての関わりを増やすこと。

#### 7 学校の特色に関して

- これからも、きまりを守り、「ノーチャイム」「日本一のろうか」「無言清掃」を意識して頑張っている児童の姿を認め、褒めながら、児童の規範意識の涵養を目指していくこと。

## 〈学校関係者評価書〉

### 1 全体評価

- メディア利用時間（スマホ、ゲーム等）、相談体制の強化全体的に児童、保護者、教職員、いずれの回答も肯定的な評価が多く、保護者や地域と連携しながら、教職員が一丸となって教育活動に取り組んできたことがうかがえた。

### 2 観点ごとの評価結果

#### I 学校教育目標・学校経営について

- 全体的に良好な結果で、対象者によってデータの相違があるデータに着目した点は良い。
- 学校の教育活動に対して無関心な保護者（アンケートに回答していない保護者）が気になる。

#### II 学校運営について

- 働き方改革においては、教職員の意識改革を推進し、教職員がゆとりをもって心身ともに健康な状態で、児童の指導にあたることができるようにしていく。
- 教職員が自信をもって職務を遂行することが保護者や児童への安心感につながっていくため、教職員間の連携を密にし、協働体制で教育活動にあたること。

#### III 学習指導について

- 教職員と、児童、保護者との認識が、教職員の意図に対して若干のギャップがあるため、授業参観の機会に加えて、日頃の学習指導の様子を伝えていくことが必要。
- 「がんばるカード」の取組など親子で明確な目標をもって家庭学習に取り組むことができるような工夫を取り入れて、家庭での親子読書の時間を確保していくこと。

#### IV 生徒指導について

- 先生に相談しにくいという児童がいるようだが、まずは家族に相談できる環境が大事なのではないかと。教師も、保護者も、共に子どもの声に耳を傾け、子どもが話しやすい雰囲気を作る必要がある。
- メディア利用については、保護者としても気になる場所なので、学校で定期的に、保護者向けに講演会など設定していただくとありがたい。

#### V 地域との連携について

- 保護者と教師とが語り合える場を設定することは、とても有意義な取組だと思う。

### 3 今後の課題として確認されたこと

- 今後は「ICT 利活用の質の向上」と「教職員の業務負担の平準化」を両輪として進め、教職員がより児童一人一人と向き合う時間とゆとりを確保していくことが、さらなる教育の質の向上につながる。
- 特別支援教育体制の共通理解は進んでいるが、具体的な指導場面での個別の配慮には、引き続き組織的なサポートや人的配置の工夫が求められる。

以上

記載責任者：甲斐市立玉幡小学校 学校関係者評価委員 齊藤 仁 印

